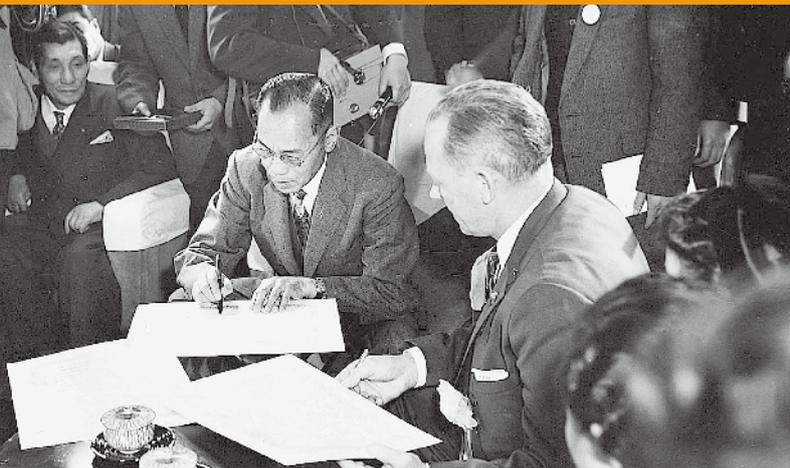


札幌・ポートランド
 姉妹都市提携 **65** 年のあゆみ



SINCE 1959

札幌・ポートランド 姉妹都市提携65年のあゆみ

目 次

■ あいさつ

札幌市長 秋元 克広	2
ポートランド前市長 テッド・ウィーラー	3
札幌姉妹都市協会 会長 岸 光右	4
ポートランドー札幌姉妹都市協会 会長 菊地 真巨	5

■ 65周年記念事業を振り返って

65周年記念プレ事業	6
65周年記念ロゴマークの制作	8
札幌からポートランドへ	10
ポートランドから札幌へ	13
その他 65周年関連事業	17
65周年記念事業からの広がり	21

■ 姉妹都市交流のあらまし

姉妹都市提携への道のり	22
姉妹都市交流の概要	23
具体的な交流事業	23
札幌姉妹都市協会	26
ポートランドー札幌姉妹都市協会	27
市民ボランティアに支えられた国際交流	28
65年のあゆみ	32

■ オレゴン州とポートランド市の概要

オレゴン州	54
ポートランド市	56

■ 資料編

盟約書、決議文、合意書	60
姉妹提携団体一覧	69
主な姉妹都市関係寄贈品及び施設	71
姉妹都市活動受賞一覧	72
ポートランド市機構図・歴代ポートランド市長	73

札幌・ポートランド姉妹都市提携 65 周年を迎えて

札幌市長 秋元 克広



1959年11月17日、両市にとって初めてとなる姉妹都市の盟約を結んで以来、札幌市とポートランド市は、市民同士の草の根の交流を中心に多様な交流を積み重ねながら、2024年には提携65周年という節目の年を迎えました。

6月には、提携65周年を記念した訪問団を結成し、私自身としては5年ぶりにポートランドを訪問しました。前回の訪問後、世界では様々な出来事があり、新型コロナウイルス感染症の流行により両市における交流もオンラインによる非接触のコミュニケーションを余儀なくされるなどの影響を受けました。そのような困難な時期を経ても変わらぬ両市の深い友情の絆を確認できたこと

は、この訪問における最大の収穫の一つであります。

とりわけ、ポートランド最大のお祭りである、ローズ・フェスティバルのグランド・フローラル・パレードに参加した際、ポートランドの最初の姉妹都市として札幌がアナウンスされる度に、沿道から「サッポロ、サッポロ！」と歓声が上がったのは、この訪問におけるハイライトの一つでありました。

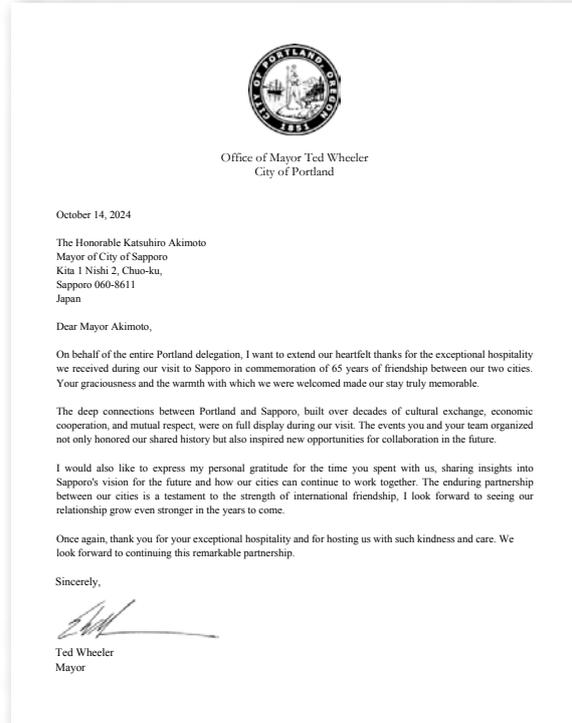
9月には、ウィーラー市長をはじめとするポートランド市の訪問団を札幌にお迎えし、実りの秋を迎えた北海道・札幌の食を楽しむイベント、さっぽろオータムフェストにご参加いただきました。また、65周年を記念するビジネス向け、市民向けセミナーの開催を通じて、市民や企業の皆さまと直にふれあいながら、ポートランドについて理解を深める機会も設けていただきました。

その後、11月には、本市と株式会社コロンビアスポーツウェアジャパンとの間で「持続可能な世界都市さっぽろの実現を目指す包括連携協定」を締結しました。これは、6月にポートランドを訪問した際、コロンビアスポーツウェア本社を訪問したことがきっかけとなり締結に至ったものであり、これからの取組の展開が大いに期待されるところです。

65年前に姉妹都市提携を結んだ札幌市とポートランド市は、その長きにわたる姉妹都市交流の中で、それぞれの市民が、お互いの文化やまちづくりを知り、学び、実践することで、それぞれのまちの魅力を高めてきました。先人たちのこれまでの努力に感謝と敬意の念を持ち、この深い絆を礎としつつ、この良質で素晴らしい交流が、この先、70年、80年、100年とたゆみなく続いていくことを願っております。

65周年に寄せて

ポートランド市長 テッド・ウィーラー



ポートランド訪問団を代表し、姉妹都市提携65周年記念の札幌訪問の際の格別のおもてなしに、心より感謝いたします。ご親切に暖かく歓迎していただき、今回の訪問が真に忘れがたいものとなりました。

何十年にもわたる文化交流、経済協力、そしてお互いを尊重しあうことで育まれたポートランドと札幌の深い繋がりを、今回の訪問ではっきりと見ることができました。市長と職員の皆さんがご用意くださったイベントは、共に培ってきた歴史に敬意を示すだけでなく、未来の協力関係の新しい機会にも気づきを与えてくれるものでした。

ご一緒いただいた時間、そして札幌の未来の構想や今後どのように2つの都市が連携していけるのかをお示しくださったことに、個人的にお礼を申し上げます。私たちの都市の強いパートナーシップは国際的な友情の強さの証となっています。

この度のひとかたならぬおもてなし、ご親切なお心遣いに重ねてお礼申し上げます。この素晴らしい関係が今後も続くことを期待しております。

札幌とポートランドを結ぶ橋

札幌姉妹都市協会 会長 岸 光右

1959年の姉妹都市提携から65年もの歳月を超え、札幌市とポートランド市は広く・深く・濃い交流を続けてまいりました。

交流の担い手は行政のみならず、芸術・スポーツ団体、教育機関、市民ボランティアなど多岐にわたり、様々な絆が受け継がれてきています。とりわけ市民ボランティアの活躍なくして、現在までの強い信頼で結ばれた交流は続けてこれなかったと思います。

本誌でも紹介されている2012年から継続する札幌市立高校とポートランド・グラント高校との高校生相互派遣事業や、両市のボランティアが数年にわたって連携し、古い日本語の資料を現代の英語に翻訳して後世に残す事業などは、その大きな成果と言えることでしょう。

65周年を記念して札幌の市長団がポートランドを訪問した際も、またポートランドから市長や市民の方々が来札された際も、両市の多くの市民の方々にご協力をいただいて交流事業を行い、親交をさらに深めることができました。

ポートランド側でこの信頼関係の礎となってくださっているのが、1969年に設立されたポートランドー札幌姉妹都市協会（PSSCA）であり、65周年記念で来札された際の代表ご挨拶では、両市の親交を『懸け橋』と表現され、相互の訪問がこの橋をより力強くしているとお話くださいました。

これまでこの橋を築き、維持されてきた関係の皆様方の多大なるご貢献に心から感謝申し上げますと共に、今後もぜひこの橋を大切にしてお互いの都市を行き来し、様々なものを持って行ったり持ち帰ったりしながら、『橋のまち』ポートランドとの交流がさらに強固になるように願っています。

どうかこれからもこの温かな姉妹都市交流へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

65周年を迎えて ～変わっていくこと、そして変わらないもの

ポートランドー札幌姉妹都市協会 会長 菊地 真巨

ポートランドと札幌の姉妹都市関係が始まった1959年、私はまだ生まれていませんでした。そして、2059年に100周年を迎えるとき、自分がそこに立ち会えるかどうかは分かりません。けれども、不思議な安心感と確信があるのです——そのときにはきっと、盛大なお祝いが行われるだろうと。

昨今のパンデミックや急速なテクノロジーの進化を経て、社会も私たちの活動も大きく変わりました。パンデミック中は多くの対面イベントが中止になり、ミーティングはオンラインで行われるようになりました。そんな風に何もかもが急激に変化するなかで迎えた65周年ですが、同時に「変わらないもの」もたくさんあることに気づかされました。

たとえば、札幌からの皆さんに空港で再会できたときの喜び。イベントに参加する人々の笑顔。札幌を訪れるポートランド市民のワクワクした様子。そして、両市の市長や市民が実際に顔を合わせて対話し交流を深め、お互いの街や文化を学び合い、美味しいものを一緒に味わって、かけがえのない思い出を作っていくことの大切さです。

6月に札幌からの訪問団を迎えてポートランドで行われた歓迎レセプションには、数十年前に高校生として札幌に行ったことがあるというポートランド市民が参加してくれ、さよならパーティでは、夏に札幌でホームステイをする高校生が一生懸命日本語を使って札幌からの訪問団に挨拶をしてくれました。また、秋に札幌を訪れたポートランド訪問団は、市民向けセミナーにゲストとして参加し、オータムフェスタで秋の味覚を楽しんできました。

社会やテクノロジー、そして私たちを取り巻く環境がどれだけ変わっても、このような交流の核にある「人と人がふれあう喜び」は、これからも変わらないはずです。私たちがその楽しさと素晴らしさを次の世代に受け渡していくことで、きっと70周年もその先も、ポートランドと札幌をつなぐ友情は続いていくと私は信じています。

65周年記念事業を振り返って

札幌・ポートランド姉妹都市提携65周年記念プレ事業

ポートランド市との姉妹都市提携65周年に向けた機運醸成を図るため65周年前年にあたる2023年（令和5年）に以下のプレ事業が実施されました。

○「レッツトーク・イングリッシュ高校生スペシャル2023」

2023年（令和5年）7月10日（月）札幌国際プラザにて、『レッツトーク・イングリッシュ高校生スペシャル2023』が開催され、日米の高校生の交流が行われました。このイベントには、ポートランド市から夏期研修で札幌を訪れているグラント高校生20名と札幌圏の高校生34名が参加しました。

アイスブレイク「Never Have I Ever」などで打ち解けたほか、姉妹都市の友好を表現する「ゆるキャラ」を作りました。

参加した高校生からは、「ポートランドや異文化に興味を持つことができ楽しかった」、「お互いの文化を知ることができて有意義だった」などの感想が多く寄せられ、異文化交流のひと時となりました。



「ゆるキャラ」発表



参加者全員集合！

○ 共創フォーラムの開催

65周年に向けた機運醸成と両市の公民連携まちづくりに関する情報交換及び交流の機会として、2023年（令和5年）8月2日、「共創フォーラム（第20回）」を開催（主催は一般社団法人都市・地域共創研究所及び札幌市）。ポートランド在住の建築家柳澤恭行氏による「公共空間を活用した不確実性の世界でのウェルネスを模索するポートランドの試み」と題した講演の後、ディスカッションなどが行われました。



フォーラムの様子

○ 北海道陶芸会55周年記念展 陶・新時代

概要について25ページに掲載。

○ ミュージカル映画上映会

ポートランドー札幌姉妹都市協会が、65周年プレ事業と65周年に向けたファンディングを兼ねて、第二次世界大戦中の日系人の強制収容を主題にしたミュージカル映画「ALLEGIANCE」の上映会をポートランド市内で実施しました。

○ 北海学園札幌高校のポートランド研修

2023年（令和5年）10月29日から11月18日にかけて北海学園札幌高等学校の生徒が、ホームステイをしながら、ポートランド州立大の研修プログラムを通じ、ボランティア活動などに参加。滞在中はグラント高校の生徒とも交流を行いました。



○ 北海学園大学人文学部学生によるポートランド・札幌観光アンバサダー活動（参考）

北海学園大学人文学部では、ポートランド州立大学における語学文化研修参加中である2024年（令和6年）年8月24日にポートランド州立大学キャンパスで行われたファーマーズ・マーケットで学生による札幌観光アンバサダー活動を行いました。当日は、札幌市から提供された札幌観光広報資料とともに、学生が制作した札幌市内観光に関わるGoogleマップにリンクする2次元コードを埋め込んだポストカードをマーケットに訪れる現地の方に配布しました。



また、札幌市内で9月に行われたさっぽろオータムフェストでは、札幌・ポートランド姉妹都市65周年記念ブースにポートランド観光協会のボランティアとして参加し、ポートランド観光を振興する資料の配布のお手伝いをしました。

札幌・ポートランド姉妹都市提携 65 周年記念ロゴマークの制作

65 周年を象徴する統一的な記念ロゴを制作するため、ポートランド市内の芸術系大学「Pacific Northwest College of Art (PNCA)」と大学間学術交流協定を結んでいる札幌市立大学デザイン学部の学生にロゴデザインの募集を行ったところ、10 名から作品の提出がありました。

この 10 作品について、市公式ホームページ上で投票を受け付け、投票の結果上位となった 3 作品の中から、ポートランド市、ポートランドー札幌姉妹都市協会 (PSSCA)、札幌国際プラザ、札幌市の 4 者で協議を行った結果、札幌市立大学デザイン学部人間情報デザインコース 3 年 (当時) 菅野 絢果 (かんの あやか) さんの以下の作品が選ばれました。

このロゴマークをあしらった、バッジ、コースター、サコッシュなどの記念グッズを製作、各種記念事業の装飾などに用いられたほか、両市のクラフトビールの関係者によって作られた 65 周年記念ビールのラベルにも使われました。



<デザインコンセプト>

「エレガントさ」を意識してデザイン。札幌とポートランドに共通する都市と自然の調和を意識し、札幌のモチーフには「カッコウ」、ポートランドのモチーフには「フード山」を採用。また、両市のモチーフに星をプラスして、「華やかさ」と両市の未来の「明るさ」をイメージ付けています。

○ 投票の概要

【投票期間】

2024 年 (令和 6 年) 3 月 13 日 (水曜日) 14 時 00 分から 3 月 24 日 (日曜日) 17 時 00 分まで

【投票総数】 528 票

【上位となった 3 作品】

		
119 票	105 票	84 票

【表彰式について】

2024年（令和6年）4月23日（火曜日）、65周年記念ロゴマークのデザインを作成した札幌市立大学デザイン学部人間情報デザインコース3年（当時）菅野 絢果（かんの あやか）さんに対する表彰式を実施しました。



表彰式の様子

※菅野さんの受賞コメント

「シンプルさにこだわりました。モチーフについて、ポートランドも自然が近くて、フッド山という山が大きな存在なのではと思います、札幌のカッコウとともに自然をモチーフにしました。札幌、ポートランドの人にも大事に思ってもらいたい。いろいろな人の目に触れるものを作れたことがうれしいです。」

■ 札幌・ポートランド姉妹都市提携 65周年記念ロゴデザイン候補作品の一覧

	<p>札幌市がポートランドに対して姉妹提携都市 30 周年を記念して寄贈した釣鐘をモチーフに、お互いのまちを代表する花であるライラックとバラの紋様をあしらった。成長と交流のイメージをもつピンクを用いて、両者の交友がこれからも続いていくことを印象付けている。</p>
	<p>両市の“交わり”をコンセプトとし、両市が交わり合うようなイメージでデザイン。札幌を象徴するスズランの花とポートランドを象徴するバラの花をモチーフとし、2つが融合したような配置で描き、両市の市旗にある星とダイヤの形や、両市旗に共通するブルー・グリーンカラーデザインを組み込んでいる。</p>
	<p>札幌市の鳥であるカッコウと、ポートランドの象徴であるバラを取り入れたデザイン。札幌市とポートランドの市旗に含まれている青色を使い、お互いの市に親しみがあるような配色となっている。カッコウが啜っている黄色いのバラには、花言葉である「友情」「平和」という意味を込めている。</p>
	<p>2つの都市が握手をする様子が両都市のつながりを強調。両都市のシンボリック存在の建物や山などをモチーフとし、姉妹都市のロゴであることをアピールしているほか、札幌は赤、ポートランドは青と色を分けることで握手の行為をより分かりやすく引き立てている。</p>
	<p>ポートランド市のポートランド・ビル入口上部と、札幌市の芸術の森野外美術館に展示されている「ポートランドディア」を共通点として見出し、モチーフの中心としてデザイン。さらに、両市の特徴を表現するため、ポートランド市を象徴する「バラ」と、札幌市を代表する「スズラン」、アクセントとして「カッコウ」を取り入れたデザインとしている。</p>
	<p>両市の市旗をモチーフとし、「6」の中心にある六角形は、札幌市の市旗や市章から取り、「5」はポートランド市の市旗にある青いラインをモチーフとしたもの。また、全体的にシンプルな形とし、過去のロゴイメージとは異なる、新たな側面で表現したほか、カラーは両方の市旗に共通する青と緑とした。</p>
	<p>札幌とポートランドをつなぐもの・類似するものをモチーフとし、両市の街の中心にある公園のトレードマークとして存在する「さっぽろテレビ塔」と「ワシントンスクエア凱旋」、市の花である「ライラック」と「バラ」を取り入れた。中心には開拓使のマークである星を置き、両市が開拓使によって歴史がはじまったことを表現している。</p>
	<p>過去の周年記念ロゴに合わせ、「エレガントさ」を意識してデザイン。札幌とポートランドに共通する都市と自然の調和を意識し、札幌のモチーフには「カッコウ」、ポートランドのモチーフには「フッド山」を採用。また、両市のモチーフに星をプラスして、「華やかさ」と両市の未来の「明るさ」をイメージ付けている。</p>
	<p>65年もの間、良好な関係を築いている根幹に「つながり」や「親和性」があると考え、札幌市の市章にもなっている六角形とポートランド市の市章にもなっている円を線で結び、両市が近い緯度に位置していることを表現。また、65から切り抜いて線を表現していることで、線（つながり）と数字を一体化させ、両市のつながりが65年続いているということを表現している。</p>
	<p>両市が築いてきたこれまでの関係と、これからの未来に築かれていく関係性をコンセプトにデザイン。両市の象徴とされる花のスズランとバラをモチーフとし、花は両市を表し、茎の部分がらせん状に絡み合うことで、本物の姉妹のような強いつながりがあるという意味が込められている。</p>

札幌からポートランドへ

2024年（令和6年）6月、札幌市とポートランド市の姉妹都市提携65周年を祝うため、札幌から36名の記念訪問団がポートランドを訪れました。

現地では、秋元市長とテッド・ウィーラー市長（当時）がお会いし、65年という伝統ある姉妹都市交流のさらなる発展や、今後の経済交流の重要性について意見交換を行ったほか、オレゴン州屈指の祭典である「ローズ・フェスティバル」への参加などを通じ、ポートランドの方々の温かいおもてなしに触れ、交流を深めました。

また、市政の参考となる企業・施設の視察を行いました。今回のポートランド市の訪問では、札幌市が取り組む多文化共生や産業集積に向けた支援等について、多くの知見を得ることができました。



ポートランド市長と

○ 訪問団の主なスケジュール

2024年（令和6年）

6月6日（木）

- 在ポートランド日本国総領事表敬訪問
- ポートランド市長表敬訪問
- ポートランド市コミュニティ・市民生活局訪問
- ポートランド市主催姉妹都市連合式典・レセプション出席
- オレゴン日米協会訪問
- IRCO（移民難民コミュニティ組織）訪問
- 在ポートランド領事事務所・ポートランドー札幌姉妹都市協会共同歓迎レセプション出席

6月7日（金）

- コロンビアスポーツウェアカンパニー訪問
- ラムリサーチ訪問
- ビジネスオレゴン（オレゴン州政府経済開発局）訪問
- プロスパー・ポートランド（ポートランド市経済振興局）訪問
- ポートランド日本庭園訪問および同庭園主催レセプション出席

6月8日（土）

- ローズ・フェスティバル参加
- マイ・ピープルズ・マーケット訪問
- ポートランドー札幌姉妹都市協会主催フェアウェルパーティ出席

○ 記念訪問団の紹介

訪問団は、経済関係団体、議会訪問団、市長訪問団などで構成されました。滞在中は、ポートランド市の多文化共生施策について学び、さまざまな文化的背景を持つ方々の支援を目的とした物販イベント「マイ・ピープルズ・マーケット」を視察するなど、9つの企業や団体などを訪問、ポートランド市のさまざまな取組を学びました。



コミュニティ・市民生活局との意見交換



オレゴン日米協会を訪問



ラムリサーチ社を訪問



ポートランド日本庭園主催のレセプションに参加



ローズ・フェスティバル「グランド・フローラル・パレード」に参加



マイ・ピープルズ・マーケットの視察



札幌からの訪問団受入れにあたって

ポートランドー札幌姉妹都市協会 (PSSCA)
理事 ロビン・ヤング

65年もの間、札幌とポートランドの市民は、文化、教育、ビジネス、そして個人的にも強い関係を築いて協力してきました。札幌とポートランドがこのような市民同士の交流を始めた時、私たちのほとんどはまだ生まれていませんでしたが、65周年のお祝いでは、6月にポートランドで秋元市長をはじめ、札幌市議会議員、地域社会や企業のリーダーのみなさんを歓迎いたしました。

この訪問のハイライトは、ボブズ・レッド・ミル（レストラン）、コロンビアスポーツウェア（スポーツウェアメーカー）、ラムリサーチ（半導体製造装置メーカー）といった地元企業への訪問でした。また、グラント高校も札幌訪問団の方々をお迎えすると共に、秋元市長はポートランドで毎年行われるローズ・パレードにも参加されました。

私たちは、秋元市長がポートランド日本庭園で詠んだ俳句を特にうれしく思いました。その句で秋元市長は、フッド山と富士山が似ているとおっしゃったのです。

PSSCAの比較的新しい理事として、札幌市国際部、札幌国際プラザ、ポートランド市、そしてポートランドー札幌姉妹都市協会の先達の方々の時間と才能がこの特別な絆を作り上げてくれたことに、心より深く感謝申し上げます。



PSSCA主催の夕食会で
中央がヤング氏、その左がPSSCA菊地会長／一番右手が秋元市長



SAYONARA PARTYにて関係者全員で

ポートランドから札幌へ

2024年（令和6年）9月に、テッド・ウィーラー市長（当時）を団長とする32名のポートランド市訪問団が札幌を訪れました。

ポートランドのビジネスモデルに関心のある市内企業関係者向けのビジネスセミナーを開催し、同市の観光協会やポートランドを創業の地とするコロンビアスポーツウェアジャパンなどが登壇したほか、札幌市民向けのセミナーに、市民訪問団が参加し、親しく膝を交えた交流が行われました。

また、さっぽろオータムフェストにて実りの秋を迎えた北海道・札幌の食を楽しんだほか、GX（グリーン・トランスフォーメーション）や子ども食堂など、札幌市が現在取り組んでいる施策について学びました。

■ 札幌での主なスケジュール

	市長訪問団	市民訪問団
9月26日（木）	● 札幌市表敬訪問	
	● GX（グリーン・トランスフォーメーション） 施策の説明、水素ステーションの視察など ● 65周年記念ビジネスセミナー	● 日本文化体験 ● 市内視察
	● さっぽろオータムフェスト視察	
9月27日（金）	● モエレ沼公園視察	
	● 大倉山ジャンプ競技場、オリンピックミュージアム視察	
	● 姉妹都市提携65周年記念祝賀会	
9月28日（土）	● 子ども食堂視察	● 市民向けセミナー 「行ったつもりでポートランド」
	● フェアウェルパーティ	



大倉山ジャンプ競技場での記念撮影



ポートランド市訪問団の代表と

○ ポートランド市訪問団の紹介

訪問団の参加者は、テッド・ウィーラー市長をはじめとする市長訪問団、市民訪問団、ポートランドー札幌姉妹都市協会、ポートランド日本庭園、ポートランド観光協会など、総勢 32 名となりました。



ビジネスセミナー



さっぽろオータムフェスト



日本文化体験



姉妹都市提携65周年記念祝賀会



子ども食堂の視察



フェアウェルパーティー



札幌での旅の思い出

ポートランドー札幌姉妹都市協会 (PSSCA)
副会長 ジア・シヨック

街に着いた瞬間、新たな冒険に出るような感覚を覚えました。誰もが北海道をできる限り満喫しようという熱い期待を共有していました。そのわずか数ヶ月前の6月、ポートランドに日本の代表団を受け入れるという恵まれた機会があったので、初日の朝には多くの見知った顔があって、興奮の再会を果たしました。市長たちもすぐに旧交を温め合い、交わされた言葉はごく型どおりの形式的なご挨拶でしたが、口調は友好的でリラックスしたものになり、互いへの敬愛と喜びにあふれていました。私は、フォーマルな面でもインフォーマルな面でも強い姉妹都市の結びつき、特に個人同士の絆にいつも感謝しています。しっかりと結ばれたつながりの元で、互いを熱烈に擁護し合える存在はかけがえのないものです。



父娘での着付け体験

札幌市では、日本の伝統に触れる機会を次々と与えてくれ、1週間のうちに公式・非公式の事業が詰め込まれていたため、街の魅力をすべて見て回るのには並大抵のことではありませんでした。

でも、最高の天気恵まれ、大倉山では、高さへの恐怖を忘れるほどその景色に魅了されました！緑に囲まれたスキージャンプ台、さらにジャンプ台頂上からの宝物のような景色を特別に見せていただいたほか、札幌オリンピックミュージアムの中に戻ると、案内してくれたオリンピックが彼のメダルを持たせてくれるなど、札幌の方々の厚いおもてなしの心を改めて示していただきました。

札幌市内観光の表向き部分を楽しむだけでも十分でしたが、オータムフェストでポートランドのかけらを見つけたり、代表団とは関係のない人々も私たちに特別な配慮をしてくれたりするのを見るにつけ、あらゆる側面で温かいおもてなしを感じました。



大倉山ジャンプ台頂上からの札幌の景色



この旅は本当に特別な旅でした

ポートランド観光協会
国際観光部シニア・マネージャー 古川 陽子

ポートランド観光協会 (Travel Portland) はポートランド地域の観光促進とコンベンション誘致を通しての経済開発を目的とした非営利組織です。ポートランドにとって、日本からの旅行者は大変重要な位置を占めており、2019年までは海外からのビジター数としては日本が第一位でした。コロナ禍で大幅に落ち込んだ数は、2024年にはコロナ前の約6割までに回復しました。円安やインフレといった逆風に関わらず、日本からポートランドにまず戻ってきていただいたのは、姉妹都市関係、教育旅行関係の方々でした。これも長年にわたる市民交流で築かれた強い絆のおかげに他なりません。

2024年姉妹都市65周年は日米観光交流年でもありました。9月のポートランドから札幌への視察団には、ジェフ・ミラー CEO を始め3名で参加させていただきました。記念の「経済セミナー」ではコロンビアスポーツウェア様とともに参加、ポートランドの観光の現在と将来の展望について紹介させていただき、また札幌の経済界の皆様との貴重な交流機会を設けていただきました。同時に、北海道新聞様のご協力によりテレビ塔下にてポートランド紹介ブースを設け、旅行会社ベルトラ様とともに出展、ポートランドの魅力を発信しました。また、65周年記念ビール販売を通じて、クラフトビールのメッカとしてのポートランドを多くの方々に知っていただけたかと思います。

記念事業後も、2025年の雪まつりでコロンビアスポーツウェア様とともに共同ブースを出展するなど、引き続き札幌でのポートランド観光促進事業を進めてまいりました。札幌市をはじめ、ポートランドー札幌姉妹都市協会の皆様のご尽力に感謝申し上げます。今後とも、両市の強い縁に私どもが少しでも貢献できれば幸いです。

その他 65 周年関連事業

○「レッツトーク・イングリッシュ 学生スペシャル 2024」

札幌国際プラザは 2024 年（令和 6 年）2 月 10 日（土）、札幌市と米国・ポートランド市との姉妹都市提携 65 周年を記念し、札幌とアメリカの学生との交流イベントを開催しました。

このイベントは、2019 年に札幌市立高校とポートランド市グラント高校の相互交流事業に参加し、現在は、ポートランドー札幌姉妹都市協会青年部として、両市の交流事業に携わっているトミー・マイヤーさんが仲間の留学生たちとともに企画したものです。札幌圏の学生 41 名が参加し、ゲームやフリートークなどを通じて、色々な背景を持つ若者が、共に過ごし、お互いを知ることによって、興味や関心を広げる機会となりました。

ポートランドー札幌姉妹都市協会
トミー・マイヤーさん

2024 年 2 月に札幌を訪れた時、長年お世話になった札幌の皆さんに何か恩返しがあればと思いました。ただ、大学生の私にできることは限られています。そこで考えたのが、言語交流の場を作ることでした。以前、短期間英語の先生をした際、多くの生徒が「英語は難しい」「間違えるのが怖い」と口にしていたのを思い出し、日本語が多少できるアメリカ人として、英語を楽しく感じてもらえる場を作りたいと考えました。そこで、札幌国際プラザの皆さんのご協力のもと、高校時代の交換留学で開催した「レッツトーク English」を参考に、英語交流イベントを企画しました。ちょうど大学の友人たちも一緒に札幌を訪れることになっていたため、41 名ほどの札幌の学生と英語で楽しく会話を交わしました。準備や運営には課題もありましたが、参加者が「英語は怖くない」「外国語を通じて楽しく交流できる」と感じてくれたら嬉しいです。



グループトークの様子



トミー・マイヤーさんによるポートランドの紹介

○ 65 周年記念ビール

ポートランドは、アメリカの中でも小規模で独立した醸造所で醸造されるビール、いわゆる「クラフトビール」で有名なまちです。

姉妹都市提携 60 周年の際には、「60 人ビールプロジェクト」として、60 人の有志で構成する委員会が札幌・ポートランド両市のクラフトビール醸造家や醸造所の協力のもと、60 周年記念のコラボレーションビールを醸造・販売しました。

今回の 65 周年においても札幌市内のクラフトビールの関係者に対し、65 周年記念ロゴマーク（8 ページを参照）の活用したビールの製作を呼びかけたところ、米国を中心に輸入クラフトビールを取り扱っているえぞ麦酒株式会社と中央区でクラフトビール醸造所を構える Streetlight Brewing（合同会社札幌醸々）の 2 社に応じていただきました。

えぞ麦酒はポートランドのブルワリーで醸造された 2 種類のビールを、Streetlight Brewing は、醸造責任者がポートランドを訪れて現地で仕込んだビールを輸入し、販売しました。

これらのビールには 65 周年の記念ロゴマークが付けられ、9 月にポートランド市記念訪問団が来札した際に開催した記念祝賀会の会場で参加者に提供されたほか、市内でも販売され、市民に親しまれました。



Streetlight Brewingの
65周年記念缶ビール



えぞ麦酒の65周年記念缶ビール

○「行ったつもりでポートランド ～ お互いのまちの魅力を語ろう～」

2024年（令和6年）9月28日（土）、札幌国際プラザの主催によりポートランド親善訪問団と札幌市民のみなさんとの交流イベント「行ったつもりでポートランド ～ お互いのまちの魅力を語ろう～」を開催しました。

歴史の趣あふれた札幌市資料館で実施されたこのイベントには、ポートランド市訪問団21名と札幌市民33名が参加し、全員が英語と日本語の両言語を駆使し、言語と文化が交錯し合いながら互いのまちの魅力を知る、楽しい時間となりました。

英語での進行（日本語進行は札幌国際プラザのスタッフ）には、訪問団の一員スコット・ガプティル氏のご協力もいただき、その経験についてこんな感想もいただきました。

《 ガプティル氏からのコメント 》

お互いの都市を、そこを故郷とする人々の目や経験を通して学び合う機会へようこそ。

様々な年齢や経験を持つポートランドと札幌の市民たちが歴史的建造物に集まり、姉妹都市提携65周年を振り返りつつ、パンフレットにはない、ポートランドと札幌に住んだ経験があるからこそわかる魅力を分かち合いました。少人数のグループで一人一人のユニークな知識を共有することで会話は深まり、たくさんの質問と答えが交わされて、両都市が生き生きとしたものになりました。

過ごした時間は短かったですが、誰もが自分たちのまちの特別さを知って、ぜひまた訪れてほしいという思いを伝え合いました。学生、高齢者、専門家、姉妹都市協会関係者など、それぞれの都市を訪れ、おもてなしを受けた人々が会話を進めてくれて、初めのうちは発言をためらっていた人たちも、最後にはさまざまな話題で会話が弾んでいました。

このようにして、2つの都市の市民はひとつになるのです。

グループ会話では札幌国際プラザの外国語ボランティアが場を盛り立てるお手伝いもしてくださり、多方面のご協力のおかげで、参加した誰もの心に残る、大変温かな姉妹都市交流となりました。



ジア・ショング氏からポートランドの魅力紹介



MC(ガプティル氏)とショング氏



日英両言語を駆使しての和気あいの会話

○「ポートランド親善訪問団フェアウェルパーティ」

両市の姉妹都市交流は長年にわたり、市民同士の草の根の交流によって支えられてきました。札幌国際プラザが主催しポートランド親善訪問団の滞在最終日となる2024年（令和6年）9月28日（土）、両市の市民交流に携わる多くの方々が一堂に会し、これまでの交流を振り返りながら65周年という節目を祝いました。市役所1階の会場入口には、札幌国際プラザフローラルアートグループによる美しい生け花が展示され、会場を華やかに彩りました。さらに、親善訪問団の滞在中、着物の着付け体験や札幌市時計台の案内などをしてくださった市民ボランティアの皆さんにもご参加いただきました。こうして、多くの方々と一緒に過ごし、交流の輪を広げる貴重なひとときとなりました。

また、6年ぶりに再開となる「札幌市立高校生ポートランド派遣事業」に参加する高校生6名も参加し、ポートランド派遣に向けた意気込みを日本語と英語で発表しました。両市の絆を受け継いでいく若者たちの希望に満ちた言葉に、会場は温かな雰囲気になりました。



ウィーラー前ポートランド市長と日本文化体験ボランティアさん



ウィーラー前ポートランド市長と歓談する
「札幌市立高校生ポートランド派遣事業」参加生徒

○ 日系スーパー「宇和島屋」における北海道（札幌）フェアの開催

姉妹都市提携60周年の前年にあたる2018年（平成30年）7月に、札幌物産協会とポートランドー札幌姉妹都市協会の連携により、ポートランド近郊の日系スーパー「宇和島屋」にて物産展「Sapporo Food Fair」が開催されました。

以後毎年回を重ね、7回目を迎えた2024年（令和6年）11月の物産展では、姉妹都市提携65周年を記念して、札幌物産協会の池田会長のほか、札幌市からは町田副市長が参加するオープニングセレモニーを実施し、在ポートランド領事事務所の吉岡総領事や関係者などとともに鏡割りを行いました。

物産展には、事前の商談会で選定した39社212品目が各店舗で販売されたほか、事業者による店舗内での実演販売も行われ、多くの来場者でにぎわいました。



オープニングの鏡割りの様子

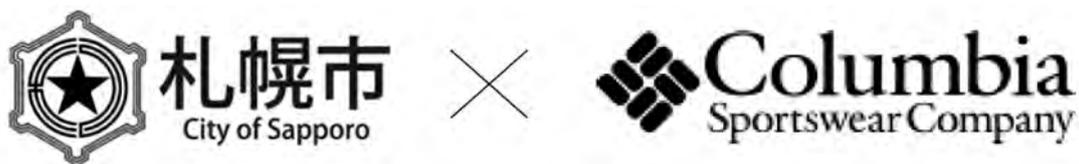


フェアの様子

65周年記念事業からの広がり

今回の65周年記念事業をきっかけにして生まれた新たな取組をご紹介します。

○株式会社コロビアスポーツウェアジャパンとの包括連携協定



2024年（令和6年）6月に、65周年記念訪問団がポートランド市を訪問した際、秋元市長の視察先の一つとして、創業の地である「ポートランド」と、姉妹都市の「札幌」の2つの都市名を合わせたウィンターシューズ「SapLand」（サップランド）を開発するなどのご縁から、コロビアスポーツウェア本社を視察し、経済的な交流や連携等に関して意見交換を実施しました。

この訪問をきっかけとして、ポートランドに強い結びつきを持つ株式会社コロビアスポーツウェアジャパンと札幌市が相互に連携した取組について協議がスタートし、持続可能な世界都市さっぽろの実現を目指す包括連携協定を締結することとなりました。

2024年（令和6年）11月29日、札幌市役所において包括連携協定締結式が行われ、秋元市長と株式会社コロビアスポーツウェアジャパンのラザリ・マッスイモ代表取締役社長との間で下記の連携事項を確認する協定書への署名が行われました。

その後には、「さっぽろ雪まつり」の会場において同社とポートランド観光協会が共同でブースを出展したほか、札幌市青少年山の家におけるアウトドア体験活動などの連携した取組も行われています。

【連携事項】

- (1) 豊かな自然を生かしたアウトドア活動及び自然環境保全の推進に関すること。
- (2) 次世代を担う子どものアウトドア体験や職業体験に関すること。
- (3) 市内山岳地帯の安全安心な環境の保全、活用等に関すること。
- (4) その他アウトドアスポーツ振興や観光振興、地域活性化に関すること。



締結式の様子



ポートランド観光協会とコロビアのブースの様子

姉妹都市交流のあらし

姉妹都市提携への道のり

○成立の経過

1959年（昭和34年）10月末、外務省アメリカ局長とポートランド日系人会長・民安薫人氏から、ポートランド市との姉妹都市縁組を要請する書簡が、原田市長宛に送られてきました。

アメリカ局長からの書簡は、ポートランド市において海外に姉妹都市を持つ機運が高まっており、日本の都市との提供を強く希望していること、また、ポートランド市長が訪日の際に候補都市として札幌、静岡の両市長との話し合いの斡旋を、ポートランド日本総領事館から依頼してきたことを伝えるものでした。民安氏の書簡も、ポートランド市が札幌市との姉妹提携縁組を強く望んでいるため、ぜひシュランク・ポートランド市長が訪日の際に、意見交換をしてほしいという依頼でした。

この書簡を受け取った原田市長及び札幌市幹部職員は、直ちに姉妹都市提携の検討に着手。その結果、

- ①両市はほぼ同緯度に位置し、風土も似通っており、かつ比較的近距离にある。
- ②ポートランド市がオレゴン州最大の都市であり産業、経済、文化の中心地であるのと同様、札幌市も北海道最大の都市であり政治、経済、文化の中心地である。
- ③北海道は、ウィリアム・クラーク、ホーレス・ケブロンなど、多くの米国人によって教育及び産業技術面で指導を受け、物心両面にわたって多大の影響を受けたという経過からも、北海道の中心地として発展した札幌市が、米国の都市であるポートランド市と提携することは極めて意義深い。

などの点から、ポートランド市が札幌市の姉妹都市としてふさわしく、両市の提携が極めて適切であり、望ましい、という結論を得るに至りました。

そして、1959年（昭和34年）11月4日～7日の4日間、第5回日米市長及び商工会議所会頭会議が大阪市で開かれました。この会議にはポートランド市からはシュランク市長夫妻、フルトン商業会議所会頭夫妻のほか17名が出席。原田市長は早速大阪に飛び、シュランク市長と姉妹都市提携についての会談を持ち、両者の間で完全な意見の一致をみたのでした。会議最終日の11月7日、両市長は札幌・ポートランド両市の提携が成立した旨の共同発表を行いました。

○札幌における調印

11月17日、シュランク市長夫妻とフルトン商業会議所会頭夫妻は、姉妹都市提携調印のため札幌市を訪問。正午過ぎ、市庁舎に到着した一行は、玄関まで出迎えた原田市長夫妻や廊下を埋め尽くす職員の盛大な拍手を受けて応接室に入室。応接室では、市理事者、

市議会正副議長、商工会議所正副会頭等としばし歓談の後、両市長により、両市の永遠の発展と協力を誓う提携盟約書に署名、ここに札幌市とポートランド市の姉妹都市提携が実現したのでした。

シュランク市長は、この記念すべき日のために、ポートランド市から取り寄せた市の象徴のバラの苗6株と、市民の心の扉を開くという敬愛の意味を持つ「市の鍵」を原田市長に贈呈。原田市長からは、ポートランド市民へのメッセージがシュランク市長に託され、北海道の案内書と札幌の名産品、麻のテーブルクロスが贈られました。提携調印を終えてから、一行は北海道、札幌市、札幌商工会議所、北海道日米協会共催の歓迎昼食会に臨み、その後、原田市長の案内で藻岩山、中島公園、円山公園など市内見学を行いました。夕方には札幌グランドホテルで歓迎レセプションが開かれ、市内各界の代表者約200名が出席、知事、アメリカ総領事等から祝辞を述べられるなど、和気あいあいの歓談を楽しんだ後、帰国の途につきました。

○市議会の決議

姉妹都市提携について、札幌、ポートランド両市の市長は、市民の総意を代表すべき市議会に諮るが、両市議会とも全会一致で都市提携に関する決議を採択。両市間の提携関係の成立に全面的に賛意を表すとともに、今後両市間における提携活動が全市民の理解と協力のもとに促進され、相互に友好を深め、あわせて日米両国の親善に寄与することを確認しました。

○都市提携とは

都市提携は、規模や性格の似た二つの都市の市民が、人種や国境を越えた友情によって結ばれ、文化、経済の交流を通じて相互理解を深め、国際親善と世界平和に役立てようとするものです。そして純粋に民間の運動として行われるところに大きな意義があります。都市提携は第2次大戦後、ヨーロッパとアメリカとの間で結ばれたのが始まりです。戦後のヨーロッパ復興に励む人たちと、アメリカの人々の温かい友情とが触れ合った結果、次々と姉妹都市が誕生していきました。やがてこの動きは中南米、アジアへと広がり、1956年には米国のアイゼンハワー大統領が大々的に都市提携を提唱し、拍車がかかりました。

わが国での姉妹都市提携は、1955年（昭和30年）12月、長崎と米国ミネソタ州セントポール市が最初。北海道では札幌とポートランド市が提携したのが最初で、2025年（令和7年）5月現在、道内では131の市町村が姉妹提携を行っています。

姉妹都市交流の概要

札幌市とポートランド市の姉妹都市交流の特色は、市民レベルの草の根交流にあり、現在 100 組を超える姉妹提携が結ばれています。また、姉妹提携団体の枠を超えた交流も盛んで、両市のスポーツ団体や文化芸術団体などがそれぞれの分野で姉妹都市間の市民交流と友情の輪を広げています。

札幌市とポートランド市のこのような市民レベルでの活発な交流は、姉妹都市交流のモデルとして国際的にも高い評価を受けおり、これまで何度も「世界姉妹都市コンテスト」に入賞を果たしています。また、1989 年（平成元年）には姉妹都市交流の功績を認められ札幌姉妹都市協会が、2004 年（平成 16 年）には、日米交流の増進への顕著な功績が認められ、ポートランドー札幌姉妹都市協会が、それぞれ日本国の外務大臣表彰を受賞しています。

さらに、両市の交流は単なる友好親善にとどまらず、環境や市民参加の分野などで、お互いが学びあい、それぞれのまちづくりに生かしています。

具体的な交流事業

○札幌市立高校とポートランド市グラント高校との交流事業

札幌市では、1969 年（昭和 44 年）から 2011 年（平成 23 年）まで、札幌国際プラザ、札幌姉妹都市協会などが主催する英語弁論大会が開催され、成績優秀者が親善使節としてポートランドに派遣されるなど、姉妹都市交流促進の役割を果たしていました。

残念ながら当該大会は運営や財源の問題により 2012 年（平成 24 年）以降開催が見送られることとなり、これに代わり、ポートランドとの持続的な交流及び人材育成を目的として始まったのが、札幌市立高校生・ポートランド市グラント高校生交流事業です。

初回となる 2012 年（平成 24 年）1 月、グラント高校生 5 名が来札し、市立高校生徒宅にホームステイをしながら生徒と一緒に高校に通い、市民との交流を通じて日本語を学びました。以降、2024 年（令和 6 年）末までに 136 名の生徒が参加しています。

市立高校生のポートランド・グラント高校への派遣は、少し遅れて 2013 年（平成 25 年）度に始まり、札幌市立高等学校・特別支援学校校長会と協力して事業を開始。ポートランドー札幌姉妹都市協会やグラント高校などの「親の会」の協力のもと、第 1 回派遣研修に 21 名が参加しました。研修では学校での授業体験やボランティア施設訪問などを行い、以降毎年 16 名を派遣。

姉妹都市提携 60 周年となる 2019 年（令和元年）10 月には、交流事業を実施する 4 団体の間で相互交流プログラムを円滑に行うため、協定書（※）を締結して、基盤の整理も行いました。

その後コロナ禍により実際の往来は停止したものの、その間オンライン交流などでしっかり絆は保たれ、数年のブランクののち、2023 年（令和 5 年）夏のグラント高校生の受入から再開。2025 年（令和 7 年）3 月には札幌側からの派遣も復活して、札幌の延べ派遣者数は 116 名になりました。研修後には、毎回その成果を札幌市民向けの帰国報告会で発表しています。

継続的な高校生同士の交流が、姉妹都市交流の発展と、両市の未来を担う青少年の人材育成につながるがますます期待されています。

※札幌市立高校生・ポートランド・グラント高校生交流事業に関する協定書

- 署名者（4 者）：・非営利団体「親の会」（ポートランド）
・札幌市立高等学校・特別支援学校校長会（札幌）
・非営利団体ポートランドー札幌姉妹都市協会（ポートランド）
・公益財団法人札幌国際プラザ（札幌）



【2024年 グラント高校生受入】
[Let's Talk English 高校生スペシャル]



【2019年 札幌市立高校生派遣】
ウィーラー・ポートランド市長表敬訪問

○宮の森小学校とリッチモンド小学校の交流

札幌市立宮の森小学校（1958年（昭和33年）開校・児童数615名 [2025年1月現在]）では、2005年（平成17年）2月に姉妹都市提携45周年を祝う訪問団が来札された際、団員だったリッチモンド小学校校長より姉妹校提携の希望があったことをきっかけに交流を始めました。

その後、2009年（平成21年）11月の50周年イベントの際に、正式に姉妹校提携の調印を行いました。

2024年（令和6年）までに計9回、リッチモンド小学校の訪問団が来校しています。2024年は、リッチモンド小学校の児童10名を迎え、3・4年生児童と歌や音楽の体験活動を共にし、5・6年生の教室での算数や書道、図工など普段の授業を体験して、親睦・交流を深めました。

宮の森小学校ホームページ：<https://www.miyanomori-e.sapporo-c.ed.jp/>



4年生と行ったお琴の演奏体験の様子

○札幌市立大学とPNCAの交流

札幌市立大学は、ポートランド市内の芸術系大学「Pacific Northwest College of Art (PNCA)」と連携し、国際交流事業を行っており、姉妹都市提携60周年となる2019年（令和元年）9月には、大学間学術交流協定が締結されました。

コロナ禍により、交流が困難な時期があったものの、2023年（令和5年）9月には、デザイン学部の学生7名がポートランド市に滞在し、現地の学生らと交流を図りながら、それぞれが関心のある文化領域のフィールドワークを行いました。

2024年（令和6年）3月には、その体験と記録をドローイング、映像、フォトルポルタージュなどの多彩な形式で展示作品として表現し、学生たちそれぞれの視点でポートランドの文化の魅力を伝える成果展を行うなど、精力的な活動を行っています。



札幌市立大学の学生による成果展の様子

○北海道陶芸会(HPS)による交流

北海道陶芸会は1968年(昭和43年)に窯元16名により北海道の陶芸の振興と会員相互の親睦を目的に発足し、毎年会員展をはじめ、講演会、ワークショップ、北海道立近代美術館、札幌芸術の森美術館での記念展など多くの催しを行って参りました。

2004年(平成16年)2月、さっぽろ雪まつりの国際雪像コンクールに参加したオレゴン陶芸家協会(OPA)会員との出会いを機に交流が始まり、2008年(平成20年)当会設立40周年記念事業を初の海外展としてポートランド市 OPA ショーケース及び同市日本庭園にて開催しました。

札幌芸術の森美術館で開催した2009年(平成21年)40周年記念展、2013年(平成25年)45周年記念展、2018年(平成30年)50周年記念展では OPA 作家の出品、来札があり、その後2019年(令和元年)には、札幌市とポートランド市の姉妹都市60周年を記念して、ポートランド日本庭園より招待を受け、「Northern Lights - Ceramic Art of Hokkaido Revisited -」と題した展覧会を開催しました。

2023年(令和5年)には、設立55周年と OPA との交流20周年を記念し、展覧会「陶・新時代-北からのメッセージ」が開催され、OPAの会員24名の作品が出品されたほか、OPA 会員15名が来札、ワークショップやギャラリートークなどを通じ、交流を深めました。

北海道陶芸会ホームページ：<https://hokkaido-pottery-society.jimdofree.com/>



「陶・新時代」オープニングセレモニーの様子



OPA会員によるデモンストレーションの様子

○フレンドシップフォース札幌 (FF 札幌) による交流

フレンドシップフォース札幌 (Friendship Force Sapporo / FF 札幌) は、1997年(平成9年)、アメリカのNPO: Friendship Force International (FFI) の札幌クラブとして設立されました。「人々を隔てる様々な壁を越え、世界的な理解を促進する」という理念のもと、国際交流活動を行い、ホームステイを中心に、地域の文化・暮らしを国内外に紹介しています。

姉妹都市提携65周年の前年である2023年(令和5年)、FF 札幌はポートランドのFF コロンビア・カスケードから13名を会員宅に受け入れ、ホームステイを通じて楽しく交流しました。

そして翌2024年(令和6年)6月、今度はFF 札幌がポートランドを訪問。ポートランドー札幌姉妹都市協会のご尽力により、札幌とポートランドのFF 会員も姉妹都市提携65周年記念行事に参加しました。

この特別な機会には、ポートランドの姉妹都市各国の代表も集まり、国際色豊かで心に残るひとときとなりました。ポートランド市長が「国境を越えた交流の大切さ」について語られ、その言葉がFFIの理念とも深く共鳴し、大変感銘を受けました。



現地でのフェアウェルディナーにて

FF 札幌ホームページ：<https://ffsapporo2020.jimdofree.com/>

FFI ホームページ：<https://friendshipforce.org/>

札幌姉妹都市協会

札幌市の姉妹都市交流は、1959年にポートランド市と姉妹都市提携を結んだのを皮切りに、1972年にドイツ・ミュンヘン市、1980年に中国・瀋陽市、1990年にロシアのノボシビルスク市、そして2010年には韓国の大田広域市と提携を行って、現在、5都市との交流・親交を続けてきています。

札幌と姉妹都市間の交流事業の発展、拡大に伴って、当初設立された個々の提携委員会では対応しきれない事例も多くなり、同時に市民の間にも一つの姉妹都市の情報以外に、複合的に姉妹都市の交流に関する情報提供を望む声が強くなっていきました。

こうした背景のもと、1986年4月23日、「札幌姉妹都市協会」が設立され、その後1997年より、より市民に近い活動への期待とともに、事務局が札幌市国際部から財団法人札幌国際プラザに移管されました。同協会は札幌、ポートランド、ミュンヘン、瀋陽、ノボシビルスク、大田との間で、教育、科学、芸術、体育、経済、技術の分野で、相互に総合的な交流を図るための事業を推進し、姉妹都市間相互の友好親善に寄与することを目的として活動してきました。

札幌姉妹都市協会は、設立当初は市からの補助金に加え、多くの市民、企業等からの寄付金で運営され、姉妹都市との交流プログラムの実施や助成等を行っていましたが、2012年4月に約40の関係団体による組織へと改編され、以降札幌国際プラザと一体となって姉妹都市交流事業を進めています。



ポートランドを紹介する子ども向けパネル

現在は、各姉妹・友好都市の生活や文化などを紹介し、より関心を持ってもらうため、SNSを通じて姉妹都市に関する情報を発信するほか、姉妹都市紹介パネルの無料貸出やパンフレットの無料配布を行っています。また関係団体と協力して各種セミナーを実施し、幅広い世代の方に対して姉妹・友好都市のPRを行っています。

ポートランドとの交流においては、1970年6月に「各姉妹校間の交流活動の情報交換を行い、その内容の充実をはかり、教育的意義を高める」という目的で設立された札幌市姉妹校連絡会との協力で、1979年のポートランド市との20周年記念の年から5年毎の周年時にポートランドに姉妹校を持つ札幌市内の中学校および高校から生徒をポートランドへ派遣し、また2010年1月には50周年記念として、姉妹校を持つ中学校1校、高校5校の代表生徒各1名と引率教諭1名をポートランド市に派遣もしました。

前述の通り2012年に組織編制が変わって札幌姉妹都市協会独自の予算を持たなくなっからは、ポートランドとの交流事業も形を変え、現在は毎年早春に札幌市立高校の生徒をポートランドへ派遣、初夏にポートランドからイマージョン教育を行っているグラント高校の生徒を市立高校へ受け入れる札幌市立高校生・ポートランド市グラント高校生交流事業などの活動の支援を行っています。

札幌姉妹都市協会は、今後も、札幌市と各姉妹・友好都市との友好親善と交流の拡大発展を図って活動していきます。



札幌姉妹都市協会総会にて関係情報の共有・交換

ポートランド—札幌姉妹都市協会 (PSSCA)

ポートランド—札幌姉妹都市協会
会長 菊地 真巨

ポートランド—札幌姉妹都市協会 (Portland-Sapporo Sister City Association、略して PSSCA) は、ボランティアで活動する理事とポートランド市民有志による NPO です。

アイゼンハワー大統領が提言した、人と人との交流を通じた国家間の平和と繁栄を促進する取り組みの一環として、1959年にポートランド市と札幌市の姉妹都市が始まりました。1962年に当時のポートランド市長テリー・シュランク氏が、15名の市民を姉妹都市提携委員会の委員に指名し、1969年に同委員会が現在の PSSCA へ移行。以後 50 年以上にわたって、様々な教育・行政機関や企業、地元団体等と提携しながら、両市を繋ぐ交流を支えてきました。

現在、PSSCA は各種の寄付とイベントで集められた資金によって運営されています。理事の顔ぶれは少しずつ入れ替わりますが、40 年以上活動を続けてきたベテランから日本語を学ぶ高校生、またポートランド日本庭園や地元の日系スーパー「宇和島屋」など他団体との窓口役まで、年齢も経験もさまざまなメンバーが集まって活動しています。それぞれ興味も得意分野も異なりますが、共通しているのは両市への愛情。自分たちの住むポートランドと大好きな札幌との交流を盛り上げたい、というのが私たちの原動力です。



フェアウェルパーティで～ PSSCAのメンバーと秋元市長



PORTLAND-SAPPORO
SISTER CITY ASSOCIATION

5 年前、60 周年を盛大に祝った直後から世界的なパンデミックが始まり、PSSCA も大きな試練にさらされました。高校生の交流プログラムは数年にわたって途絶え、宇和島屋での札幌フードフェアも中止になり、毎月の理事会もオンライン開催となりました。そんな中でも PSSCA は札幌国際プラザと協力し、両市の高校生の交流イベントをオンラインで開催するなど、工夫を凝らして活動を続けてきました。ポートランド市民同士の交流イベント「札幌ハングアウト」では、対面で集まる代わりに昔の雪まつりの映像をオンラインで視聴するなど、テクノロジーを活用した取り組みを行いました。困難の中でも活動をあきらめず、ピンチをチャンスに変えようと工夫する理事の努力は、本当に素晴らしいものだったと思います。

無事に 65 周年を迎えて対面で交流できた 2024 年は、PSSCA にとって非常に意味のある 1 年となりました。2025 年現在、アメリカは政権交代とともに大きな変化を迎えており、私たちのような民間団体が学生同士、市民同士の顔の見える交流を続けていくことが今まで以上に重要になっています。気軽に両国間を行き来できて実際に会えるということの大切さを改めて感じつつ、70 周年に向けて、さらにポートランド市民を巻き込んで活動を広げていきたいと願っています。

市民ボランティアに支えられた国際交流

札幌の国際交流は、市民の深い理解と積極的な参加に支えられてきています。

様々な分野で市民レベルでの草の根交流が幅広く浸透しており、なかには歴史に残る大きな成果を残す活動もあります。

そのような活動として、札幌とポートランド両市のボランティアの方々が海を越えて連携・協働して、古い日本語原文を現代の英語に翻訳し、その成果がポートランド市内の2つの博物館：オレゴン日系アメリカ人博物館（※1）及びオレゴン歴史博物館（※2）の資料データとして収蔵されることになった3つのプロジェクトがありました。

※1 オレゴン日系アメリカ人博物館 Japanese American Museum of Oregon

<https://jamo.org/>

※2 オレゴン歴史博物館 Oregon Historical Society

<https://www.ohs.org/>

これらのプロジェクトでは、クラウドデータベースを駆使して、基本的に札幌側のボランティアが古い日本語を解読して現代日本語へ、ポートランド側ボランティアはそれを現代英語にし、全体を整えるという作業を行いました。



両市のボランティアが莫大な時間と労力をかけた成果によって、オレゴン州の歴史の中で活躍した日本人の思いや経験が後世までしっかりと残され、研究や学習に役立てられることとなりました。

オレゴン歴史博物館では、2025年（令和7年）6月13日から安井プロジェクトの様子が展示されています。

これら3つ全てのプロジェクトで全体をコーディネートして下さったポートランドー札幌姉妹都市協会理事の洋子・グールディさんからは、次のようなメッセージをいただいています。

< ポートランド・札幌姉妹都市交流「翻訳プロジェクト」 >

100年ほど前の日本語新聞をボランティアで現代日本語と英語に翻訳するプロジェクトは、出だしで躓きました。旧かな使い、特に古い漢字を文書に起こす段階です。

札幌にSOSを出し、多くの方々に助けをいただきました。実に90名近い方々が名乗りを上げて下さり、ポートランドの60数名のボランティアとの協力で、プロジェクトを完了することができたのです。

その後、一世の日記翻訳プロジェクトはコロナで直接交流が出来なかったときのほぼ唯一のボランティア交流でしたし、2年がかりの安井一族の文書プロジェクトも、それぞれ規模は異なりましたが同様の体制で完了することができました。

皆さんと一体となって進めてきたこの体験は、私の宝物です。

ポートランドー札幌姉妹都市協会理事
洋子 Gulde (グールディ)

今後もまた、様々な形で両市民の連携事業ができることが期待されます。

札幌の国際交流を支えるボランティアの活動には、先に紹介した翻訳プロジェクトのように特定の事業で市民ボランティア同士が連携して取り組む事例もあれば、札幌を訪問されるゲストのおもてなしや札幌市に住む外国人の支援などで日ごろから活躍されているみなさんもいます。

札幌国際プラザの外国語ボランティア、日本文化体験ボランティアやホームステイボランティアは、長く・幅広く札幌市の国際交流・多文化共生を支えている、そんな市民ボランティアです。

◀ 外国語ボランティア ▶

外国語ボランティア制度は、冬季オリンピックなどで国際化が進むなか、「語学力を国際親善に役立てましょう」という合言葉によって1977年（昭和52年）9月に札幌市で開始されました。1991年（平成3年）8月に札幌国際プラザが財団法人となったことを機に国際プラザに移行され、市民のボランティア精神により、外国語を使って「国際交流とコンベンション」を、さらに近年は外国人住民との多文化共生を支える活動も含めて、着実に実績を積み重ねています。

登録者は2024年（令和6年）4月30日現在で10ヶ国語290名（英語、中国語、ドイツ語、韓国語、フランス語、ロシア語、スペイン語など）。派遣活動としては、姉妹都市交流をはじめとした国際交流や、在住外国人の支援などの多文化共生事業における運営・通訳補助、さらに札幌開催のイベント等に海外から来訪する方々への情報提供、市内案内等があり、多方面で活躍しています。

65周年ポートランド訪問団の来訪の際にも、「行ったつもりでポートランド」事業実施の際に大活躍しました。

【外国語ボランティアネットワークの活動】

外国語ボランティアの有志が登録し、自ら企画運営する活動をすると共に、日頃から研修会などでボランティア同士の横のつながりを強める組織が「札幌国際プラザ外国語ボランティアネットワーク」です。

「時計台」での館内案内や、北海道大学キャンパスウォークツアーなどの活動、さらに外国人対象の市内の名所や文化を楽しむイベント開催などを行う傍ら、外国につながる子どもたちの支援なども行っています。札幌を代表する冬のイベント「さっぽろ雪まつり」の会場における、海外からの観光客への案内等は、一大事業となっています。

札幌国際プラザ外国語ボランティアネットワークホームページ

<https://sapporo-flv.com/>



イベント「行ったつもりでポートランド」での通訳・運営補助活動



防災イベントでの通訳活動

◀ 日本文化体験ボランティア ▶

札幌国際プラザ日本文化体験ボランティアは、ボランティアそれぞれの知識や技能を生かして着物の着付け、茶道、華道、書道などの種目に登録し、海外から札幌を訪れる方々に日本文化に親しんでいただき、おもてなしを行う活動をしています。

1992年（平成4年）発足当初は「(旧)札幌天神山国際ハウスボランティア会」という名称で、当時札幌国際プラザが管理していた札幌天神山国際ハウス周辺の地域（澄川・平岸地区周辺）の方々が、同ハウス滞在者をはじめとする海外の方向けに日本文化を紹介する活動をしていましたが、2008年（平成20年）3月の施設の閉館とともに、札幌国際プラザ多文化交流部に移管されました。

札幌市で開催される姉妹都市交流事業、国際学会、アジア冬季競技大会やラグビーワールドカップなどの国際スポーツ大会、さらに札幌国際プラザが主催する交流イベントなど活動の場は様々で、これまで海外からの多くの参加者の方々に日本文化の良さを体験していただいています。

今回も、ポートランドからの65周年記念訪問団に着付けを楽しんでいただき、大変なご好評をいただきました。



茶道体験



着付け(ポートランド親善訪問団)体験

◀ ホームステイボランティア ▶

札幌市におけるホームステイ制度の歴史は長く、1968年（昭和43年）に全国の自治体に先駆けて札幌市で設立した「札幌市民泊受入家庭登録制度」を発端とします。1991年（平成3年）8月に財団法人札幌国際プラザ設立時に制度が移管され、名称も「(財)札幌国際プラザホームステイ制度」となりました。

札幌国際プラザでは、国際交流を目的に外国から札幌を訪問する方々や道内の留学生を家庭に迎え、家族ぐるみの交流を通して、文化・習慣の違いを相互に認識し、理解を深める、“普段着で誰もが参加できる”国際交流を進めるためにホームステイ制度を運用しています。

年間を通して様々なホームステイプログラムを実施しており、1968年（昭和43年）の制度設立から2023年（令和5年）度までの受入ゲスト総数は145カ国・地域から8,087名に上ります。受け入れるゲストは、姉妹都市交流関係者、国際交流事業やスポーツ大会の参加者、留学生、日本語学習を目的とする外国人など多様です。

【札幌ホームステイ協会の活動】

札幌ホームステイ協会は、札幌国際プラザのホームステイボランティア有志による自主活動の組織です。

1986年（昭和61年）に「ホームステイ7区連絡会」として、当時札幌のホームステイ制度登録家庭の情報交換などを目的としたネットワークとして設立され、財団法人札幌国際プラザの設立に伴って「札幌ホームステイ協会」と改称。ホームステイ登録家庭同士での交流会の実施や広報誌「かけはし」の発行など、ホームステイ家庭としてのホスピタリティーの向上を目指して活動しています。



「JENESYS2024中国高校生訪日団」ホームビジット受入の様子

65年のあゆみ

札幌市とポートランド市は、1959年（昭和34年）11月に両市にとっては初めての姉妹都市提携を結びました。65年間にわたり、様々な分野での市民交流が絶えまなく続いています。

1959年(昭和34年) [姉妹都市提携調印]

11月・テリー D.シュランク市長夫妻及びジョン・フルトン商業会議所会頭が来札し、姉妹都市提携盟約書に調印。バラ6株を持参



1959年11月 原田市長とシュランク市長、姉妹都市提携盟約書に調印

12月・札幌・ポートランド都市提携委員会が発足(委員長 原田與作市長)
・ポ市議会において姉妹都市提携推進決議

1960年(昭和35年)

1月・札幌市がポ市に映画『札幌のプロフィール』を贈呈
2月・札幌市議会において姉妹都市提携促進を決議
3月・スキー選手団5名が訪ポし、ジャンプ競技に参加し、1、2、4位入賞
・札幌市がポ市に映画『雪まつり』を贈呈
・小・中学生の交換図画作品展を札幌市、ポ市で開催
4月・ポ市が札幌市にオレゴン松苗1、000本、ポ市紹介映画『上水道プラン』を贈呈
・いづみ幼稚園～ロバートグレイ校が提携(姉妹提携第1号)
・北海道大学交響楽団～ポートランド州立大学音楽部が提携
・南高校～ワシントン高校が提携
5月・札幌東ロータリークラブ～北ポートランドロータリークラブが提携
6月・中島好雄教育長が訪ポし、札幌市代表としてローズフェスティバルに参加。藻岩山と札幌神社をデザインした花車に乗って、パレードに参加
・菊地定夫氏が訪ポし、ローズフェスティバルジャンプ大会に参加
7月・世界一周産業使節団(団長 福山甚三郎氏) 14名が訪ポ
8月・北海道放送世界経済事情視察団(団長 松原太郎氏) 9名が訪ポ
9月・全日本写真連盟札幌支部～オレゴンカメラクラブが提携
10月・東洋貿易視察団(団長 マーシャル・デーナ氏) 16名が来札

1961年(昭和36年)

2月・全日本写真連盟札幌支部がポ市写真展で札幌の紹介写真124点を展示

・東高校・高橋トモ子さんがシュライナーズ肢体不自由児病院に千羽鶴を贈呈
3月・ブルーバース少女団体が札幌市にオレゴン松苗50本を贈呈
・ポ市が札幌市にバラ(ピナフォローズ)30株を贈呈
・ジム・ブレナン選手が来札し、姉妹都市代表として宮様スキー大会に参加
・札幌市がポ市に北海道の歴史・産業・観光などを紹介する写真アルバム500部を贈呈
4月・皇太子殿下がポ市ご訪問の際にシュランク市長から贈呈された草花の種子のうち800袋を札幌に下賜
6月・日本料理精覚流家元直門北海道支部～オレゴン料理長協会が提携
8月・ポ市キャンプファイアガールズが札幌の子どもたちに人形、玩具、衣料品を贈呈
9月・原田市長親善使節団6名が訪ポ
・札幌市がポ市に観光フィルム『北海道』及び『札幌の四季』を贈呈
・ポートランドジュニアシンフォニーが札幌市に演奏テープを贈呈
11月・北海道大学交響楽団が姉妹都市交歓演奏会を開催し、クローリー ポートランド州立大学教授の作品を演奏
12月・札幌市がポ市に日米修好百年祭を記念した北海道とアメリカの修好の英文回顧録を贈呈

1962年(昭和37年)

1月・札幌エスペラント会～ポートランド世界理解委員会が提携
2月・鉾山技師・秋葉安一氏がポ市に市内で産出したアンチモニー鉱物標本の学校教材を贈呈
4月・ポートランド貿易促進委員会(団長 シュランク市長) 33名が来札
・オレゴンカメラクラブが全日本写真連盟札幌支部に作品95点を贈呈し、6月に丸井デパートで展示会
・阿部謙夫提携副委員長・北海道放送社長が訪ポし、ポ市に映画『丹頂鶴の生態』を贈呈
・札幌交響楽団がポ市に市民コンサート録音テープ2本を贈呈
・札幌市がポ市庭園展示会に植木を贈呈
・旭丘高校～ジェファーソン高校が提携



Lunch party at Woman's Hall

1962年4月 シュランク市長夫人を迎えての歓迎会

- 5月 ・ポ市訪問経験者を中心にポートランド会設立(会長 三浦祐晶氏)
- 6月 ・米艦マッギンティ号乗組員(全員がポ市の予備兵)が来札
・ポ市が日本庭園とあずまやをかたどった花車『Sapporo』を制作し、ローズフェスティバルパレードに参加
- 8月 ・北海道大学北米大陸国立公園学術調査隊、斉藤斉副知事が訪ポ
- 9月 ・道青少年指導者海外派遣団が訪ポ
- 10月 ・コージーコーナー喫茶店～レストランアイランドが提携
- 12月 ・札幌中央ライオンズクラブ～ダウンタウンライオンズクラブが提携

1963年(昭和38年)

- 1月 ・リーダーズダイジェスト財団及びアメリカ都市協会主催世界姉妹都市活動コンテストで2位入賞
- 4月 ・ポートランド日本観光団(団長 A・ロキア氏) 10名が来札
- 6月 ・札幌駅前通商店街連合会がローズフェスティバルに山本洋子氏を札幌ローズクィーンとして派遣し、ライラック苗木を贈呈
- 7月 ・オレゴン州選抜高校生レスリング選手団 13名が来札
- 8月 ・ライオンズ交換青少年が訪ポ
・プロビデンス号乗組員のポ市出身者7名が来札
- 10月 ・ルイス&クラーク大学学生(ストルツ教授引率) 24名が来札し、1カ月の海外学習
・聖マーガレット教会～セントポール教会が提携
- 11月 ・シュランク市長親善使節団 21名が来札
・提携委員会、商工会議所、青年会議所、札幌東ロータリークラブ、札幌中央ライオンズクラブがポ市に御影石の石灯ろうを贈呈し、現在、ポートランド日本庭園に設置
・南小の生徒がポ市動物園の子象を『花子』と命名
・切手文化会札幌支部～ビーバースタンプクラブが提携
・香蘭女子学園高校～オレゴンエピスコパルスクールが提携
・札幌市医師会～マルトノマ郡医師会が提携

1964年(昭和39年)【姉妹都市提携5周年】

- 1月 ・南小学校～メリーズビル校が提携
- 2月 ・ポ市小学生合唱団が札幌市に『偉大なる北西部の歌』と題する音楽祭録音レコードを贈呈
- 3月 ・日本キリスト教団月寒教会～第一Congregational Churchが提携
- 4月 ・町村金五知事夫妻が訪ポ
- 6月 ・日米海底ケーブル完成を記念した北海道放送主催姉妹都市国際通話を実施



1964年6月 北海道放送のスタジオで国際電話「ハロー・ポートランド」

- 9月 ・クリスチャン文書伝道団～良書と聖書普及会が提携
・札幌婦人団体連絡協議会～ポートランド婦人団体連合会が提携
- 10月 ・琴似小学校～マウントテーパー校が提携
・札幌歯科医師会～マルトノマ郡歯科医師会が提携
・北海道拓殖銀行～オレゴン USナショナル銀行が提携
・真駒内小学校～クレストン校が提携
・北海道労働組合が訪ポ
- 11月 ・西高校～ウィルソン高校が提携
・ホテル丸窓～シティセンターモーターホテルが提携
・ルイス&クラーク大学海外兵慰問団(アイアン教授引率) 16名が来札
・オレゴン貿易使節団(代表 マーク・ハットフィールド オレゴン州知事) 37名が来札
- 12月 ・ポートランド地域洪水水害が発生し、札幌市がポ市に見舞電報を送付

1965年(昭和40年)

- 1月 ・新川小学校～ヤングサン校が提携
- 2月 ・北海道日米協会～オレゴン日米協会が提携
- 3月 ・ベバリー・ブロックウェー氏が来札し、宮様スキー大会女子大回転で優勝
・月寒高校～レイノルズ高校が提携
・札幌北光教会～ノースミンスター長老教会が提携
- 4月 ・幌西小学校～ジャンジャコブアスター校が提携
・ポートランドジュニアシンフォニーが札幌市に演奏テープを贈呈
・札幌の歯科医師団(団長 大庭秀一氏) 6名が訪ポ
・都市提携ニュース第1号及び『都市提携5年のあゆみ』を刊行
・札幌パークホテル～ベンソンホテルが提携
・札幌整肢学院～シュライナーズ肢体不自由児病院が提携
・手稲養護学校～ホラディーセンターが提携
- 5月 ・ロイヤルホテル～ポートランドヒルトンホテルが提携
・栄養短期大学付属高校～セントメアリーズアカデミーが提携
・北星学園大学～ルイス&クラーク大学が提携
・アーネスト・タラ 北ポートランドロータリークラブ会長夫妻が来札
- 6月 ・北海道放送がポ市で映画『姉妹都市ポートランドを訪ねて』制作取材
- 7月 ・日本棋院札幌丁嚙会支部～日本棋院ポートランド支部が提携
- 8月 ・札幌市議団4名が訪ポ
- 10月 ・日新小学校～ボーモント校が提携
・日本電信電話札幌支社～パシフィックノースウェストベル電話会社が提携
・原田市長親善使節団 22名が訪ポ
- 12月 ・ルイス&クラーク大学海外学習グループ(リチャーズ教授引率) 16名が来札
・イケバナ・インターナショナル札幌支部～イケバナ・インターナショナルポートランド支部が提携

1966年(昭和41年)

- 4月 ・1972年札幌冬季オリンピック決定し、シュランク市長が札幌市に祝電
- 5月 ・ルイス&クラーク大学海外学習グループ(リチャーズ教授引率) 18名が来札
・都市視察団6名が来札

- 7月 ・ポ市が札幌市に児童遊具約20点を贈呈し、中島公園と大通公園に設置
- 9月 ・ポ市が札幌市にベンソンの水飲みを贈呈し、大通公園に設置
 - ・ホクレン農業協同組合連合会～パシフィックサブライコーポレティティブが提携
 - ・草和会～ウイラメットアレンジャーズギルドが提携
 - ・宮の森幼稚園～フォスター校が提携
 - ・みなみ幼稚園～ホリールード校が提携
- 12月 ・ルイス&クラーク大学海外学習グループ(ジョンソン教授引率) 27名が来札

1967年(昭和41年)

- 1月 ・札幌アメリカ文化センターがポートランド文庫を開設
- 2月 ・ひぐち美容院～マックレー兄弟美容院が提携
 - ・月寒小学校～レント校が提携
 - ・白楊小学校～コリンズビュー校が提携
- 3月 ・日本キリスト教会札幌桑園教会～聖マルコ教会が提携
- 4月 ・ジェファーソン高校合唱団 55名が来札し、公演
 - ・KOIN-TV局が来札し、ジェファーソン高校合唱団札幌公演などを取材
 - ・オレゴン州貿易使節団 13名が来札
 - ・ポ市で「日本週間」(Salute to Japan Week)を開催し、札幌がフィルム『雪の都』、写真、児童の絵画、市内書家・画家の芸術作品、物産品などを展示



1967年4月 ジェファーソン高校合唱団札幌公演

- 6月 ・柏丘中学校～エインズワース校が提携
 - ・東高校～グラント高校が提携
 - ・ポートランド州立大学札幌夏期講習学生グループ(ドッジ教授引率) 32名が来札
 - ・札幌山岳会8名が訪ポ
- 8月 ・YMCA親善訪問団(団長 海老沢義道氏) 16名が訪ポ
 - ・プロビデンス号乗組員ポ市出身者 15名が来札
- 9月 ・ロバート・ソートン オレゴン州法務長官が来札し、札幌のバラの会展示会にポ市長杯を贈呈
- 10月 ・札幌山岳会～クラブラッツ山岳会が提携
- 11月 ・ポ市親善使節団(団長 フランシス J. アイバンシー議長) 34名が来札
 - ・ポ市姉妹団体約40団体から贈物が到着
- 12月 ・世界姉妹都市コンテスト都市の部で1位を獲得



1967年12月 世界姉妹都市コンテスト最優秀賞の楯を原田市長に手渡すブリアー米国領事とダットンアメリカンセンター館長

1968年(昭和43年)

- 1月 ・札幌市がポ市にオジロワシ 1羽を贈呈
 - ・ルイス&クラーク大学海外学習グループ(ドールズ教授引率) 24名が来札
- 2月 ・ルイス&クラーク大学生が雪まつり雪像制作に参加
- 3月 ・『都市提携8年のあゆみ』刊行
- 6月 ・全国に先がけ、民泊受入家庭登録制度を実施
 - ・世界姉妹都市コンテスト都市の部で最優秀賞を受賞
- 8月 ・開道 100年記念北海道中堅青年海外派遣団が訪ポ
 - ・札幌市議団4名が訪ポ
- 10月 ・札幌青年会議所～ポートランド青年会議所が提携
- 11月 ・オレゴン州貿易使節団(団長 トム・マッコール オレゴン州知事) 12名が来札
 - ・提携委員会に歓迎部会(部会長 阿部謙夫氏)と青少年交流部会(部会長 犬飼哲夫氏)を設置

1969年(昭和44年) [姉妹都市提携10周年]

- 6月 ・ポートランド州立大学札幌夏期講座(ドッジ教授引率) 21名が来札
 - ・ポ市が紹介映画『バラの街ポートランド』を製作
 - ・提携10周年企画部会(会長 三浦祐晶氏)を開催
- 7月 ・第7艦隊乗組員のポ市出身者 13名が来札
 - ・手稲東小学校～アラメダ校が提携
 - ・香蘭女子学園高校米国視察団 38名が訪ポ
 - ・ファッションモデルクラブ「麦」～バシストモデル学院が提携
 - ・国際ローズショーで大森光雄氏が出品したバラが国際グランプリ賞を受賞
- 10月 ・札幌親善使節団(団長 松宮議長) 22名が訪ポ
 - ・ファッションモデルクラブ「麦」が、ポ市でファッションショーを開催
 - ・北海道大学経済学部学生 15名がポートランド州立大学で夏期講座
- 11月 ・都市提携10周年記念式典を開催し旭山記念公園ポートランドの森記念植樹(しらかば、ななかまど 153本)
 - ・札幌市で第1回英語弁論大会(高校、大学・一般の部)を開催

1970年(昭和45年)

- 1月 ・ルイス&クラーク大学海外学習グループ(ロバートソン教授引率) 20名が来札
- 2月 ・バシストモデル学院のモデル5名が来札し、雪まつりでファッションショーを開催
 - ・南郷小学校～アトキンソン校が提携
- 5月 ・ポートランドー札幌姉妹都市協会(PSSCA) 委員長にロバート E. ドッジ ポートランド州立大学教授が就任
- 6月 ・札幌市の姉妹校 26校で姉妹校連絡会(会長 磯貝旭丘高校長)を発足
- 7月 ・アメリカ中小企業視察団(団長 伊藤秀良氏) 22名が訪ポ
- 8月 ・第2回北海道中堅青年海外派遣団 19名が訪ポ
- 10月 ・道庁海外研修員6名が訪ポ
 - ・イケバナ・インターナショナルポートランド支部3名が来札
- 11月 ・札幌市海外研修職員2名が訪ポ
 - ・札幌市で第2回英語弁論大会(高校、大学・一般の部)を開催
- 12月 ・北海道大学とポートランド州立大学の交換夏期講座が世界姉妹都市コンテスト団体の部で最優秀賞を受賞し、ドッジ都市提携委員長が来札



1970年12月 小学留学生のジョン・モリスさんとドッジ博士

1971年(昭和46年)

- 3月 ・ポ市が児童・絵画展を開催
- 4月 ・シュランク市長とポートランドゾンタクラブ 16名が来札
・札幌ゾンタクラブ～ポートランドゾンタクラブが提携
- 5月 ・海外先進地研修団(団長 佐久間安世氏) 22名が訪ポ
・ルイス&クラーク大学海外学習グループ(シュトルツ教授
引率) 20名が来札
- 6月 ・ポートランド州立大学札幌夏期講座(ドッジ教授引率)
29名が来札
・原田前市長が都市提携委員会の名誉委員長に就任
・札幌消費者協会～オレゴン消費者リーグが提携
- 7月 ・中学校英語科教員米国研修団(団長 西村守氏) 11
名が訪ポし研修
・海外教育事情視察団(団長 中垣正史氏) 18名が訪ポ



1971年7月 ハワード P. トレーパー市長補佐が板垣市長訪問

- 8月 ・世界姉妹都市コンテスト都市の部で表彰
・札幌市内姉妹小学校がポ市日本週間へ絵画作品 129
点を送付
- 9月 ・板垣武四市長夫妻が訪ポ
- 10月 ・北海道大学経済学部学生 18名がポートランド州立大学
で夏期講座
・シュランク市長親善使節団 20名が来札
- 11月 ・札幌青年会議所(団長 畑中俊介氏) 17名が訪ポ
・札幌市がポ市にエンタヌキーつがいを贈呈
・札幌市で第3回英語弁論大会(高校、大学・一般の部)
を開催

1972年(昭和47年)

- 1月 ・喫茶ウェスト～喫茶ジェードウェストが提携
- 2月 ・札幌オリンピックで姉妹都市親善訪問団(団長 フィッ
シャー氏) 103名が来札
・札幌アーチェリー協会～クイバーラトラーズアーチェリー
クラブが提携
・札幌ゴルフ倶楽部輪厚コース～ポートランドゴルフクラブ
が提携

- 3月 ・札幌市議団4名が訪ポ
- 4月 ・ディビット・ゲンスさんが来札し、西高校・ウィルソン高校
交換留学プログラムに参加



1972年5月 ポートランドから贈られたバラの苗木を百花園に植える

- 6月 ・札幌四番街商店街振興組合～ポートランドモール 205が
提携
- 7月 ・クリーブランド高校野球チーム 21名が来札し、北海高校、
札幌商業高校、札幌経済高校と親善試合を開催
・札幌市で国際親善都市連盟主催都市事業研究会を開
催
・バラの女王メアリー・マツニー氏が来札し、札幌夏まつ
りに参加
- 8月 ・世界姉妹都市活動コンテスト都市の部で表彰
- 9月 ・ニール・ゴールドシュミット次期市長夫妻が来札
・カナダ・アラスカ経済文化視察団(堂垣内知事、杉本道
議、平瀬助役等) 5名が訪ポ
・第3回北海道中堅青年海外派遣団が訪ポ



1972年9月 ゴールドシュミット次期市長を囲む子どもたち

- 11月 ・札幌市で第4回英語弁論大会(高校、大学・一般の部)
を開催。12月に札幌青年会議所が優秀者を第1回親善
使節としてポ市に派遣
- 12月 ・北海道大学～ポートランド州立大学が提携
・三ツ輪航空サービス～アズマノトラベルサービスが提携
・札幌 YMCA～ポートランド YMCAが提携
・シュランク前市長を札幌市名誉市民に選定

1973年(昭和48年)

- 1月 ・北海道 YMCA主催国際文化交流北米・カナダ公演団
(団長 海老沢義道氏) 34名が訪ポし、琴・書道など
日本の伝統芸術を紹介
・ルイス&クラーク大学海外学習グループ 22名が来札し、
雪まつり雪像制作に参加
- 2月 ・ロイド・アンダーソン コミッショナーが来札
- 6月 ・ミスさっぽろ高橋真由美氏が訪ポし、ローズフェスティバル
パレードに「Sapporo」と題する花車で参加

- ・ポートランド州立大学札幌夏期講座(ドッジ教授引率) 21名が来札
- 7月・ライオンズクラブ青少年交換学生4名が訪ポ
- 8月・都市提携委員会に募金部会設置(部会長 三浦祐晶氏)
 - ・北海道大学学生 4名と北星学園大学学生2名が訪ポし、姉妹校留学プログラムに参加
- 9月・ポ市動物園が円山動物園にビーバー1つがいを贈呈
- 10月・第1回姉妹都市交換写真コンテストを開催。テーマは「札幌の生活」
- 11月・板垣市長親善使節団 27名が訪ポ
 - ・札幌市・ポ市交換職員プログラムで下水道局職員1名が訪ポし、1年間ポ市役所に勤務
 - ・札幌市で第5回英語弁論大会を開催。「中学の部」を追加。12月に在札9ライオンズクラブが成績優秀者を親善使節としてポ市に派遣
 - ・ポートランド生け花グループ(団長 遍照寺和光氏) 9名が来札



1973年11月 交換職員プログラムを取り交わす

- 12月・嵯峨御流北海道司所～嵯峨御流北米司所が提携

1974年(昭和49年) [姉妹都市提携15周年]

- 4月・キース・アイズリー PSSCA委員夫妻がYMCA講師として来札
- 5月・民泊登録家庭グループが訪ポ
- 6月・嵯峨御流南秀月氏が訪ポ
- 7月・民泊家庭主婦対象英会話講習会でアイズリー夫妻が講師
- 8月・リーダーズダイジェスト誌編集部が札幌の姉妹都市活動を取材
 - ・世界姉妹都市コンテストビジネス・プロフェッショナル交換部門と教育交流部門で最優秀賞を受賞
- 9月・第4回北海道中堅青年海外派遣団が訪ポ
 - ・円山動物園がポ市動物園にエゾタヌキ2頭を贈呈
- 10月・オレゴン科学産業博物館(OMSI)の施設拡充のため姉妹団体が品物を寄贈して協力
 - ・北海道青年海外科学文化視察団11名が訪ポ
 - ・国際文化交流使節団(団長 伊藤千秋氏) 29名が訪ポ
 - ・登森李雄オレゴン日系人会長が来札
- 11月・シュランク前市長及びトレーバー前市長補佐官が来札
 - ・都市提携15周年記念行事・記念祝賀会を開催
 - ・札幌市がポ市に観光映画2本を贈呈
 - ・北陵高校～リンカーン高校が提携
 - ・第2回姉妹都市交換写真コンテストを開催。テーマは「札幌」
 - ・姉妹都市親善訪問団(団長 中村勝美氏) 18名が訪ポ
 - ・札幌市で第6回英語弁論大会(中学、高校、大学・一般の部)を開催。12月に在札9ライオンズクラブが成績優秀者を親善使節としてポ市に派遣



1974年11月 姉妹都市提携15周年記念パーティ



1974年11月 シュランク前市長がいづみ幼稚園を訪問

- 12月・リチャードE.ジョンソン ポ市職員が交換職員として来札

1975年(昭和50年)

- 3月・第3回姉妹都市交換写真コンテストを開催。テーマは「冬の札幌」
- 5月・バラの女王ダニタ・ルーズィック氏が来札し、ライラック祭りに参加
 - ・北海道テレビ放送～ポートランドKATUが提携
- 6月・札幌交響楽団姉妹都市親善演奏旅行団(団長 板垣市長) 122名が訪ポし、公演
 - ・ミスさつばろ三好真知子氏が訪ポし、ローズフェスティバルに参加
- 7月・北海道テレビ放送関係者3名が訪ポ
 - ・IAY視察団19名が訪ポ
- 9月・ゴールドシュミット市長ほか41名が来札し、日米市長及び商工会議所会頭会議(札幌市)に参加
 - ・ポ市が札幌市にインディアンの神の仮面を贈呈
- 11月・札幌市で第7回英語弁論大会(中学、高校、大学・一般の部)を開催。12月に成績優秀者を親善使節としてポ市に派遣

1976年(昭和51年)

- 3月・第4回姉妹都市交換写真コンテストを開催。テーマは「札幌のまつり」
 - ・嵯峨御流生け花交流団10名が来札
- 4月・札幌アマチュア無線連盟～ポートランドアマチュア無線クラブが提携
- 5月・札幌ボーイスカウト40名が訪ポし、米国建国200年記念ジャンボリー大会に参加
 - ・ドン・シュランダー氏(東京五輪水泳金メダル)が来札
- 6月・ポートランド州立大学札幌夏期講座(ドッジ教授引率) 10名が来札
 - ・IAY研修団30名が訪ポ
- 7月・山本建築設計事務所～ラッド・ヨドガワ・マッカートン建築

会社が提携

- 10月・ポートルランド生け花交流団(団長 カズコ・ヘンジョージ氏) 22名が来札し、ポ市が札幌市にバラの苗木を贈呈
- 11月・札幌市で第8回英語弁論大会(中学、高校、大学・一般の部)を開催。12月に成績優秀者を親善使節としてポ市に派遣
- 12月・新川中央小学校~チーフジョセフ校が提携

1977年(昭和52年)

- 1月・札幌工業高校~ベンソン工業高校が提携
- 3月・第5回姉妹都市交換写真コンテストを開催。テーマは「札幌の子供たち」
- 5月・北海道放送~ポートルランド KGW-TV局が提携
- 7月・IAJ研修団 45名が訪ポ
- 8月・板垣市長親善使節団 14名が訪ポ
・札幌市がポ市にライラック苗木を贈呈
・札幌ユース・センター 10名が訪ポ
- 9月・水墨画池内流墨彩会4名、矢沢アートフラワー教室 13名が訪ポ
- 10月・天政~ブッシュガーデンが提携
- 11月・札幌市で第9回英語弁論大会(中学、高校、大学・一般の部)を開催。12月に成績優秀者を親善使節としてポ市に派遣

1978年(昭和53年)

- 3月・第6回姉妹都市交換写真コンテストを開催。テーマは「スポーツ&ゲーム」
- 4月・若菜会(琴)~みやび会が提携
- 6月・ポートルランド州立大学札幌夏期講座 10名が来札
- 7月・第1回札幌市少年婦人ポートルランド派遣団(団長 神戸市民局長) 31名が訪ポし、札幌市がポ市に映画「札幌雪まつり」を贈呈
- 8月・オレゴンスクエアダンサーズ 20名が来札
- 10月・札幌・ポートルランド姉妹団体連絡協議会が発足
- 11月・ポ市が各姉妹校に青年会議所を通して児童絵画 600点を贈呈
・札幌市で第10回英語弁論大会(中学、高校、大学・一般の部)を開催。12月に成績優秀者を親善使節としてポ市に派遣

1979年(昭和54年) [姉妹都市提携 20周年]

- 1月・札幌商工会議所婦人クラブ 30名が訪ポ
- 2月・雪まつり大通り HBC広場に大雪像ピトック・マンションを制作
- 3月・第7回姉妹都市交換写真コンテストを開催。テーマは「家族生活」
- 6月・姉妹団体親善訪問団(団長 秋山擴氏) 46名が訪ポし、サッポロウィークに参加
・ポ市でサッポロウィークを開催
・マラソン選手団(団長 小玉昌俊体育部長) 5名が訪ポし、カスケード・ラン・オフに参加
・全米学生野球チームのポ市出身者3名が来札
- 7月・シリオス雑誌ポートルランド編集長が来札
・北星学園大学語学研修グループ 31名が訪ポし、姉妹校ルイス&クラーク大学で研修
- 8月・親善使節団(団長 ジョーダン コミッショナー) 44名が来札し、ポートルランドウィークに参加
・バラの女王ロシェル・アンダーソン氏が来札し、さっぽろ

夏まつりの花車に参加

- ・丸井今井デパートでポートルランドの芸術家が出品するポートルランド美術工芸展を開催
- ・円山動物園~ワシントンパーク動物園が提携
- ・北区連合町内運営協議会~北ポートルランド近隣協会が提携
- ・姉妹団体連絡協議会が札幌で「さっぽろの美'79」を開催し、その益金をポートルランド日本パピリオン建設のため寄付
- ・札幌市で第11回英語弁論大会(中学、高校、大学・一般の部)を開催。12月に成績優秀者を親善使節としてポ市に派遣
- 10月・チャーター便「北方圏親善の翼」(団長 河崎助役) 146名をポ市へ運航
・マラソン選手団(団長 チャールズ・ギャルフォード氏) 10名が来札し、札幌マラソンに参加
・小沢輝佐子舞踊団 33名が訪ポし、チノミシリ上演
- 11月・コニー・マックレディー市長親善訪問団 30名が来札
・ポートルランドユースフィルハーモニック(団長 ロバート・ノール氏) 131名が来札し、公演
・三信倉庫~ルディ・ウィルヘルム倉庫が提携
・ニューフラワー美容室・クニ美容室~ゲーリーラッキー美容室が提携
・橘忍氏、本村隆氏、杉田度忠氏、長谷井真信氏、三浦祐晶氏、小倉和子氏の6氏に姉妹提携功労者として札幌市長が感謝状を贈呈

1980年(昭和55年)

- 2月・中央ライオンズクラブが札幌市役所1階ホールでポ市姉妹校児童の絵画作品を展示
- 3月・『都市提携 20年のあゆみ』刊行
- 6月・マラソン選手団(団長 花輪明夫氏) 4名が訪ポし、カスケード・ラン・オフに参加
・ルイス&クラーク大学海外学習グループ(コダチ教授引率) 24名が来札
・ポートルランド州立大学札幌夏期講座(ワーツ教授引率) 13名が来札
- 7月・第2回札幌市少年婦人ポートルランド派遣団(団長 津坂総務局長) 31名が訪ポ
- 8月・日本ボーイスカウト北海道連盟(33名) が訪ポ
- 9月・ヨット「シーガル号」(艇長 野村輝之氏) 4名が太平洋横断航海の後、訪ポ
・第8回姉妹都市交換写真コンテストを開催。テーマは「移りかわる札幌の街と市民の表情」
・道青年婦人海外研修グループ(3名) が訪ポ
・札幌市で第12回英語弁論大会(中学、高校、大学・一般の部)を開催。12月に成績優秀者を親善使節としてポ市に派遣
- 11月・日本ビジネス総合専門学院海外研修グループ(21名)、日本電信電話ユーザー協会(21名) が訪ポ

1981年(昭和56年)

- 1月・ゴールドシュミット米政府運輸長官(元市長) と子息が来札
・KGW-TV局取材班(団長 ラムゼー・プロデューサー) 4名が来札し、特別番組を制作
- 6月・イケバナ・インターナショナル交流団(団長 カズコ・ヘンジョージ氏) 36名が来札
・アメリカ福祉事業研修旅行団(14名) が訪ポ
- 7月・ポートルランドボーイスカウト関係者4名が来札